

## TOMODACHI J&J 災害看護研修を共催しました（2018/6/9、7/21）

テーマ：看護学生の災害対応深化とリーダーシップ育成  
会場：災害科学国際研究所（仙台，日本）

2018年6月9日（土）および7月21日（土）に米日カウンシルおよびジョンソン・エンド・ジョンソン社と災害医療国際協力学分野の共催で、第4期となる災害看護研修の第1回、第2回の事前研修会を災害科学国際研究所において開催しました。

このプログラムは被災地出身や被災地にある看護学校の看護学生で、災害医療や地域看護、母性看護、メンタルヘルス看護などに興味をもち、国際的視野に積極的な方を事前研修、渡米しての災害看護研修、事後研修、報告会という一連の機会をとおして、災害看護に対する理解の深化と、リーダーシップの育成を図るプログラムです。第3期までの参加者が次世代を担う看護師として大きく成長していることから、第4期から第6期までの延長が決定されたものです。

第4期生は7名が選出され、またメンターとして4名の災害看護に関わる指導者も2回の事前研修会から双方向性の学びを積極的に行っています。

災害医学の江川新一教授は、災害医療の根幹をなす考え方について講義を行い、仙台防災枠組や保健医療セクターの果たすべき役割、すべての人がステークホルダーとして災害リスクを減らすことの意義などについて講義を行いました。

第1回目の事前研修では、第3期生の経験と成長を感じながら、プログラムを通して何を学び、何に取り組んでいきたいか、被災体験をどのようにひとに伝えるかなどを学びました。また、南三陸町で、語り部から被災体験を伺ったり、大川小学校を訪問して、自分たちの学びと何を伝えたいかを再認識してもらいました。

また、第2回では、自分がリサーチすべきこと、学ぶべきこと、やりたいことを明確化・具体化することが求められました。米国研修中に成し遂げたいことを宣言することによって、自分の目標を人に伝え、行動を巻き起こしていくこと（すなわちリーダーシップ）を実現するための研修です。米国小児医療センターのEmily Dorosz 看護師から米国における医療と看護についての講義を受けました。英語には同時通訳が付くため、理解度は高まります。

8月中旬には渡米し、ワシントン、ニューヨークなど米国の医療とテロリズムやハリケーンなどの災害にどのように米国が対応しているのかを実際に見学してきます。

災害看護はもちろん主題のひとつですが、研修生が看護というテーマを通してどのように自己実現するかを自ら創造していくことが期待されます。



災害医療の基礎知識について  
講義する江川新一教授



研修4期生とメンター、2期生、3期生、  
スタッフとの集合写真

文責：江川新一（災害医学研究部門）